

[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」  
[放送日]2021年4月9日  
[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) コメントータに専門分野のお話をうかがう『プラスオピニオン』。今回は、日本銀行前橋支店長の渡辺真吾さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。渡辺さんよろしくお願ひします。

(渡辺支店長) よろしくお願ひします。日本銀行では、4月1日、「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明します。まずは群馬県の業況判断D.I.です。



(キャスター) この業況判断D.I.ですが、日銀短観のニュースでよく耳にする言葉ですよ。改めてどういったものか教えてください。

(渡辺支店長) はい。景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければプラス、少なければマイナスとなります。これまでの調査を振り返ってみますと、昨年、緊急事態宣言などがあつた直後の6月調査ではマイナス35まで悪化しました。そこから回復に転じ、昨年12月では、マイナス15まで回復していました。

(キャスター) これまでの調査では、県内でも新型コロナウイルスの影響が色濃くみられていましたが、今回の調査はどのような結果になったのでしょうか。

(渡辺支店長) はい。今回、全産業の業況判断 D.I. は、前回から 8 ポイント改善し、マイナス 7 となりました。感染症流行開始後の悪化幅 39 ポイントのうち、約 7 割の 28 ポイントを取り戻しています。一方、先行きについては、マイナス 9 と、幾分悪化する見通しとなっています。

(キャスター) 製造業と非製造業に分けてみると、どんな特徴がありますか。

(渡辺支店長) はい。次のフリップでみてみます。

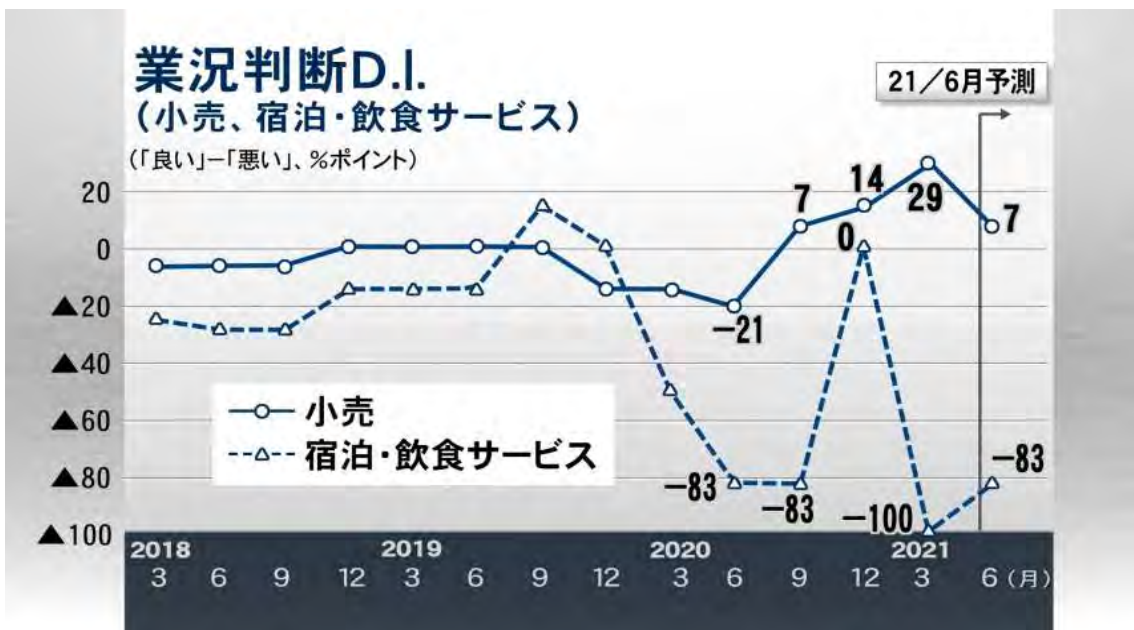


(渡辺支店長) 足もとでは製造業が改善する一方、非製造業は悪化しました。先行きについても、引き続き製造業は改善していますが、非製造業は、さらに悪化する見通しにあります。こうした動きについて、次のフリップでさらに業種ごとにみていきます。



(渡辺支店長) こちらは製造業のうち、自動車と電気機械についてみたものです。この電気機械をはじめ、機械類や素材など幅広い業種で、これまでの自動車生産回復の波及に加え、世界的なIT関連需要の拡大、内外の設備投資増加を受けた機械関連需要の拡大から、改善しています。電気機械では先行きも改善していることから窺われるように、そうした需要の拡大はしっかりしたものとみられます。一方、自動車については、半導体部品不足を受けた生産調整によって悪化しています。

(キャスター) 非製造業の業況についてはいかがでしょうか。



(渡辺支店長) 非製造業については、小売が、新車投入効果もあって消費が全体としては持ち直していることから、プラス 29 まで改善しています。もっとも、先行きは、巣ごもり需要の鈍化や新車投入効果の剥落を見通す先があることから、プラス 7 まで悪化する見通しとなっています。

(キャスター) 一方で、宿泊・飲食サービス業では、前回プラスマイナスゼロまで回復しましたが、今回は再び大幅に悪化していますね。

(渡辺支店長) はい。マイナス 100 ですので、全社が「悪い」と答えています。感染症の流行再拡大や GoTo トラベルキャンペーンの停止、時短営業要請を受け、客数が大幅に減少しました。ただ、先行きは、感染症を巡る状況の改善への期待から「悪い」超幅が縮小しています。

(キャスター) それでは、県内企業の売上や収益の計画は、どのようになっているのでしょうか。

売上高・収益計画		(前年同期比、%)	
	2020 年度 実績見込み	前回調査比 修正率	2021 年度 計画
売上高	▲8.2	▲0.8	11.4
経常利益	25.6	2.9	1.9

(渡辺支店長) 2020 年度の見込みは、自動車減産の影響がみられる一方、小売で上方修正されるなど区々の結果でした。2021 年度については、製造業は自動車の増産見込みなどを背景に増収・増益の計画ですし、非製造業も、小売における巣ごもり需要の影響はあるものの、感染症の流行が収束に向かっていくとの見通しのもと、概ね横ばいの計画となっています。この結果、全体としても、売上は増加し、経常利益も小幅ながら増加を続ける見通しです。こうした業績見通しを踏まえつつ、次のフリップで、設備投資計画をご覧ください。

## 設備投資計画

(前年度比、%)

	2020 年度 実績見込み	前回調査比 修正率	2021 年度 計画
	全産業	▲13.2	▲2.0
製造業	▲20.3	▲5.8	17.4
非製造業	8.2	7.5	17.5

(キャスター) これをみますと、2020年度は前年度比▲13.2%減少する一方で、2021年度は+17.4%も増加する計画になっていますね。

(渡辺支店長) はい。2020年度は工事遅延等の影響から下方修正となり、前回調査から減少幅を拡大しました。一方、2021年度は、業績の改善見通しに加え、昨年度からの先送り分や小売・運輸といった需要拡大業種の積極投資もあり、製造業・非製造業ともにしっかりと増加する姿となっています。

(キャスター) それでは、以上を踏まえた上で、今回の短観の結果のポイントを教えてください。

(渡辺支店長) 1点目は、業況が持ち直していることが引き続き確認された点です。個々の業種でその背景をご説明しましたが、より大きく言えば、昨年夏以降、経済活動の水準が、基調としては高まってきていることを映じた結果と言えます。

2点目は、そうは言っても、持ち直しの動きが一本調子でないことです。宿泊・飲食といった対面型サービス業に引き続き下押し圧力がかかっているほか、自動車では、半導体部品不足による減産の影響がみられます。さらに先行きについても、全体としてみれば、感染症を巡る状況の不透明感から慎重な見方が多いとも言えます。

(渡辺支店長) 3点目は、2021年度の事業計画について、全体として、売上が増加し、経常利益も小幅に増加する見通しとなっており、経済が改善基調を辿る姿が想定されていると言えます。こうした業績見通しを踏まえ、設備投資もしっかりと増加する計画となっています。

こうした短観の結果を踏まえますと、景気の持ち直しは続いていますが一歩調子とは言えず、先行きに対する慎重な見方も強い状況と言えます。ただ同時に、先行きにかけて経済が改善基調を辿るとのメインシナリオを支持する結果だったと言えます。

(キャスター) 今回のプラスオピニオンは、日本銀行前橋支店長の渡辺真吾さんに、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、お話をうかがいました。

以 上